



▲「会食が楽しみ」と料理を受け取る児童たち

館で行いました。児童たちは調理員らの指導を受けながら野菜を下ごしらえしたり、千人分つくることのできる専用の大鍋で特製のルーを加えじっくり煮込みました。

参加した児童は「普段は野菜を切ったり下ごしらえはするけど調理したのは初めてでした」、「暑くて大変だったけどヒンヤリする冷蔵庫に入ったりできて楽しかったです」と充実した表情でした。

額に汗してみんなでおいしいカレー作りに挑戦！

給食センター1日体験

7月25日、給食センター1日体験を行い、市内の小学4年生47人が参加しました。この体験は、給食への理解を深めてもらおうと財団法人多久市学校給食振興会が毎年夏休みに行っています。

今年のメニューは、地元農産物をふんだんに使った『多久いっぱい夏野菜カレー』、『焼きとうもろこし』、『青リンゴゼリー』の3品。調理は給食センターで、会食は南多久公民館で行いました。

仲間とふれあい、船山の自然を満喫！

夏休み教育キャンプ in 船山 2012

8月6日から8日までの日程で、市内小学4～6年生49人が参加し、西多久町の船山で教育キャンプが行われました。

子どもたちは、児童愛護班をはじめとする指導員から指導を受け、飯ごうでの炊飯やテント設営、小刀で竹を削って箸づくりや、竹とんぼ作りを体験。また、キャンプファイヤーなど日常の生活から離れ、自然の中で仲間とのふれあいを深めました。

参加した子どもたちは「みんなでわいわいできることが楽しい」、「手作りの竹とんぼが遠くへ飛ばせました」と笑顔で活動を楽しんでいました。



▲班旗を揚げ、各班ごとに協力しあった子どもたち

地域の方々と夏まつりで交流

8/4

救護施設しみず園（園長 河野良治 多久町西の原）の夏まつりが開かれ、小学生から大人まで約200人の地域の方も参加し開かれました。午前中は利用者の方が手づくりのお神輿で練り歩き、まつりムードを高め、参加者と総踊りやゲーム、花火を楽しみました。屋台も出て、多久明日華隊によるよさこいやお楽しみ抽選会もありました。



同園は5年前に移転し、利用者110人が生活。地域の方々とふれあいを大切にし、「地域に根付いた夏まつりになれば」と毎年8月の第1土曜日に開かれています。

柴田健二さん優勝おめでとう！

7/19

柴田健二さん（東多久町）が、7月15・16日に大阪で行われたジャパンパラリンピック水泳競技大会の自由形400mで優勝、自由形100mと背泳ぎ100mでそれぞれ2位の成績を収められました。今年は、ロンドン・パラリンピックに出場する選手と一緒に泳いだ中での入賞でした。



柴田さんは、「出場直前には、大雨で避難勧告がでて練習も行くことができませんに心配でしたが、週2回県営プールで3,700m泳ぐ練習の成果でメダルを取ることができました。11月の大会も頑張ります」と話しました。